



第 36 回電気通信普及財団賞 表彰者コメント ～テレコム社会科学学生賞～

< 順不同 >

※当論文賞受賞時の所属を記載しております。

杉山 高志 氏 (京都大学・防災研究所 特定研究員)

テレコム社会科学学生賞 佳作

「津波避難訓練支援アプリ「逃げトレ」の開発と社会実装

—コミットメントとコンティンジェンシーの相乗作用—



この度は、拙稿を「第 36 回電気通信普及財団賞テレコム社会科学学生賞 佳作」にご選定いただき、誠にありがとうございます。京都大学・防災研究所の矢守克也教授をはじめ、本研究にご指導を賜ったすべてのみなさまに、この場をお借りして感謝申し上げます。

拙稿は、情報通信技術を活用した防災対策について、人文・社会科学の観点から考察した研究です。具体的には、高知県須崎市や高知県幡多郡黒潮町、大阪府堺市の住民や小学生、高校生を対象に、『逃げトレ』というスマートフォンアプリを用いた津波避難訓練を行い、態度変容を分析しました。その結果、『逃げトレ』によって、災害想定をリアルに感じながら津波避難訓練を積み重ねることができただけではなく、避難を開始するまでの準備時間や避難の出発地点を変えて、複数回の津波避難訓練を繰り返し行っていたことが明らかになりました。スマートフォンアプリを使った津波避難訓練を行うことで、防災対策の新たな可能性を見出すことができました。

今後は、研究者として、防災研究・実践に資するための研究・教育・社会貢献活動を続けてまいりたいと考えております。この度は誠にありがとうございました。

最後になりましたが、貴財団のさらなるご発展とご繁栄をお祈り申し上げます。

山崎 竜弥 氏 (富山大学 経済学部 経営学科 専任講師、
明治大学 大学院商学研究科 博士後期課程 3 年)

テレコム社会科学学生賞 佳作

「ICT プロフェッショナリズムの現代的課題」



この度は、拙稿「ICT プロフェッショナリズムの現代的課題」を「第 36 回電気通信普及財団賞テレコム社会科学学生賞 佳作」としてご選定をいただき、誠に有り難く、また大変光栄に存じます。選定にあたった審査の先生方、ならびに財団の皆様方にはこの場をお借りして、厚く御礼を申し上げます。

本論文は、現在の ICT (Information Communication Technology) 環境において、ICT ベースの情報システムの開発と運用に関わるさまざまなタイプの ICT プロフェッショナルに求められるプロフェッショナリズムのあり方について批判的に検討したものになります。ソフトウェアエンジニアを始めとする ICT プロフェッショナルが置かれている就労環境が、ICT プロフェッショナルのプロフェッショナリズムの発露を阻害し、また FLOSS (Free/Libre Open Source Software) や AI (Artificial Intelligence) などの情報システムへの導入が、ICT プロフェッショナルの自らの仕事に対する責任所在をあいまいなものにして、ICT ベースの情報システムに依存する現代社会を「責任不在社会」に近づけるという現実を本論文において示し、バグの新たな意味の提案や、コンピューティングにおける責任の復権のための方策を提示しました。

情報倫理分野におけるもっとも重要な課題の一つとして「ICT プロフェッショナリズム」の確立が求められる



公益財団法人

電気通信普及財団

中で、今後も本論文の内容をさらに発展させ、人々の幸福と社会経済の発展に寄与することを目指して研究を進めていく所存です。

末筆ではございますが、貴財団のますますのご発展を祈念いたします。